



人口減少・少子高齢化

全国的な傾向として、人口減少・少子高齢化が社会問題となっています。人口減少・少子高齢化に伴う影響としては、企業の人手不足から経済力の低下、税収の減少、生活サービスの縮小という状況が考えられます。

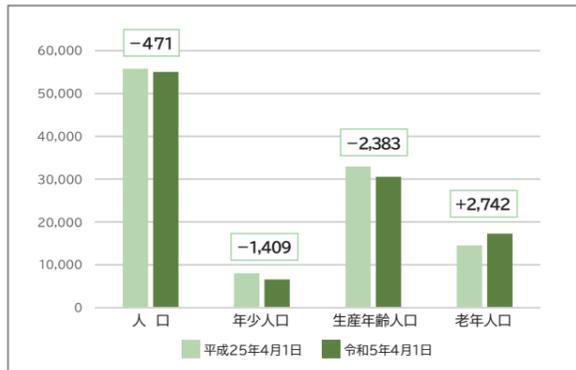
茅野市における人口減少・少子高齢化

茅野市においても同様の傾向が見えてきています。若者の流出などによる人口減少や生産年齢人口の減少により、企業の人手不足から経済力の低下、生活サービスの縮小につながる可能性があります。

また地域においても、役員のなり手不足など住民の負担が増え、地域の活力が低下し、結果として「暮らしにくいまち」となっています。

茅野市の年齢3区分推計人口

茅野市における年齢3区分推計人口においても少子化と生産年齢人口減少による高齢化が問題となってきています。令和5



年4月1日時点と10年前の平成25年4月1日時点の人口を比較したとき、55、775人から55、304人へと人口は471人減少しています。年少人口は7、983人(14.4%)から6、574人(12.1%)へ1、409人と大きく減少しています。同じく生産年齢人口は32、950人(59.4%)から30、567人(56.2%)へ2、383人減少しています。一方、老年人口は14、541人(26.2%)から17、283人(31.8%)へ2、742人と大きく増加しています。

人口減少・少子高齢化問題解決に向けて

こうした人口減少・少子高齢化問題を解決する手段の一つとして移住施策があります。茅野市においては、田舎暮らし楽園信州の協議会が中心となり、首都圏などからの移住希望者が移住に繋がるようなイベント、サポートやセミナーの開催を行っています。そういった活動などにより、首都圏などから生産年齢人口の若者や家族が移住してくるきっかけとなり、企業での人手不足が解消し、経済が活性化に繋がっていると考えられます。また、地域での役員のなり手が増え地域の活性化につながり、結果として「暮らしやすいまち」になっていくことを目標に活動をしています。

人口用語解説

- 年少人口
15歳未満の人口
- 生産年齢人口
15歳以上65歳未満の人口
- 老年人口
65歳以上の人口



- 物件見学ツアーの様子
- 東京で開催されたセミナーの様子
- ふるさと回帰フェア(国内最大級の移住マッチングフェア)へのブース出展
- イベントへの移住相談ブースの出展
- 地域おこし協力隊合同説明会の様子

茅野市の自然に囲まれて暮らす

茅野市では、移住による人口減少・少子高齢化問題の解決に向けてさまざまな活動に取り組んでいます。そのような中、茅野市に移住された方、茅野市に移住して地域課題を解決するために活動されている方、茅野市への移住を促進する活動をされている方に、実際にお話を伺いました。

田舎暮らし 楽園信州ちの協議会
設立 15 周年記念事業
 移住促進活動を続けている当団体は、この度、15周年を迎えることを記念し、特別な式典を開催します

2023.7.1 (土)

受付 12:30 開始 13:00
 会場：茅野市民館 2F アトリエ

13:00~14:00
第一部：記念式典・記念講演

記念講演
「移住・定住と持続可能な地域づくり」

稲垣 文彦 氏
 認定 NPO 法人 ふるさと回帰支援センター 副事務局長

14:10~14:55
第二部：パネルディスカッション

パネルディスカッション ~茅野市への移住~
 茅野市に移り住んだ3名の移住者と稲垣氏とで、茅野市の魅力や今後の移住施策に期待することなどをお話します。

人との出会いを通して移住を決意 三児の父 佐藤 豊 さん	豊かな自然の中で、充実した暮らしと仕事 菊農家で一児の父 鈴木 紘平 さん	人のあたたかさを感じながら、夢をかなえた カフェ「まっさんち」 正橋 絵里 さん
---	--	---

主催：楽園信州ちの協議会
 電話：0266-72-2101 (茅野市役所内)
 メール：iju@city.chino.lg.jp



協議会での活動を通じて移住者を増やしたい

宮沢 義仁 さん =田舎暮らし楽園信州ちの協議会 企画委員長=

団塊の世代が定年を迎え始めたころ、都市部を中心にふるさと回帰現象が生じ、移住を考える動きが始まっていました。全国各地の自治体でも、移住に対する取り組みが始まりつつあったため、茅野市でも取り組もうということで、民間と商工会議所、茅野市が協力し、2009年4月に「田舎暮らし楽園信州ちの協議会」(通称：楽ちの)を発足しました。

これまで、東京や名古屋、大阪などの都市部で行われる移住イベントへ参加したり、茅野市内物件見学ツアーや体験イベントを行って茅野市への移住を進めてきました。ふるさと回帰フェア(国内最大級の移住マッチングフェア)や都市部でのセミナーを通じて、茅野市をPRし、茅野市へ足を運んでもらう。そして、茅野市の物件を見学する物件見学ツアーに参加してもらい、茅野市の気候・風土・人・街並み・物件などを知ってもらう。ツアーを通してもっと茅野市を体験したいという方には体験住宅を活用してもらう。このような流れを作って移住促進の活動を進めてきました。

知らない土地への移住は不安だらけかと思いますが、今までの活動を通して、不安を解消できるのは人と人とのつながりかと感じているので、出会いの機会を増やすために、今後も参加できるイベントには積極的に参加して、移住を検討されている方々に頼られる存在になれるよう「楽ちの」メンバー一同で取り組んでまいります。



地元企業と求職者を結びつけ、人材不足の解決を

福島 太晴 さん =合同会社 Through booster 代表取締役社長=
 =株式会社IKI&IKI 外部取締役=

鹿児島から東京へ上京し、マーケティング会社を起業して経営する中で、現在、茅野駅西口近くで営業している古着屋「LAGOM」を立ち上げたメンバーと親くなりました。「LAGOM」のオープンに向けて協力し、茅野市を訪れる中で、八ヶ岳をはじめとした茅野市の自然の豊かさや気候などに魅力を感じたこと、奥さんに会ったこと、「LAGOM」のメンバーに惹かれたことで2021年に茅野市へ移住しました。

移住後は、マーケティング会社の経営を続けながら、2023年5月、茅野駅西口近くに株式会社IKI&IKIの事業として立ち上げた『就活ができるカフェラウンジ「KiitOS」』をオープンしました。「KiitOS」は、学生や移住者はもちろん地元の求職者が就職活動を行うために利用できる新しいカフェです。企業側の求人条件や就職・転職希望者の要望を把握して、採用担当者と求職者が少人数で意見交換ができる場としてカフェを活用します。営業時間は10時から18時。カフェとして通常営業するランチタイム(12時から15時)以外は、求職者のお客様は、ドリンク無料。一般のお客様は、コワーキングスペースとしてドロップインでご利用いただけます。Wi-Fiや電源も無料で使うことができます。

「KiitOS」が、地元企業と求職者を結びつけ、人材不足の解決に繋がることを目指して今後も尽力していきます。



豊かな自然に囲まれた環境の中で子育て

田中 崇 さん 田中 梓 さん

東京で働いていましたが、いつかは夫の地元である長野県に戻りたいと二人で考えていました。そんな中、諏訪地域で1か月ほど移住体験をして、東京での仕事を続けながらの移住が可能だという確信を得たこと、新型コロナウイルスによるテレワークの普及などによる生活スタイルの変化を受けて、本格的に移住を検討することになりました。

諏訪地域の中で移住先を見つける際に、茅野市の保育園が転入前でも未満児の入所申込みができたこと、担当者が丁寧に入所説明してくれたこと、0123広場のような無料の室内で広々と遊べる施設があり、子育ての環境としてもいいと思ったことが茅野市への移住を決める大きなポイントになりました。また、「特急あずさ」が茅野駅に多く停車すること、駅近のいい物件にたまたま出会ったことも移住の決め手になりました。

茅野市の保育園は、八ヶ岳も見える自然に囲まれた環境の広い園庭で、のびのび外遊びができて、園庭で野菜を栽培したりと自然に触れ合えるところがいいと思っています。また、地域の方との交流などもあり、行事がとて多く、子どもたちもとても楽しそうです。先生とかかわりも多く、安心して預けられると感じています。

子育てしやすい環境の中で、鳥のさえずりやカエルの鳴き声などの自然の音を感じながら生活できてとても満足しています。